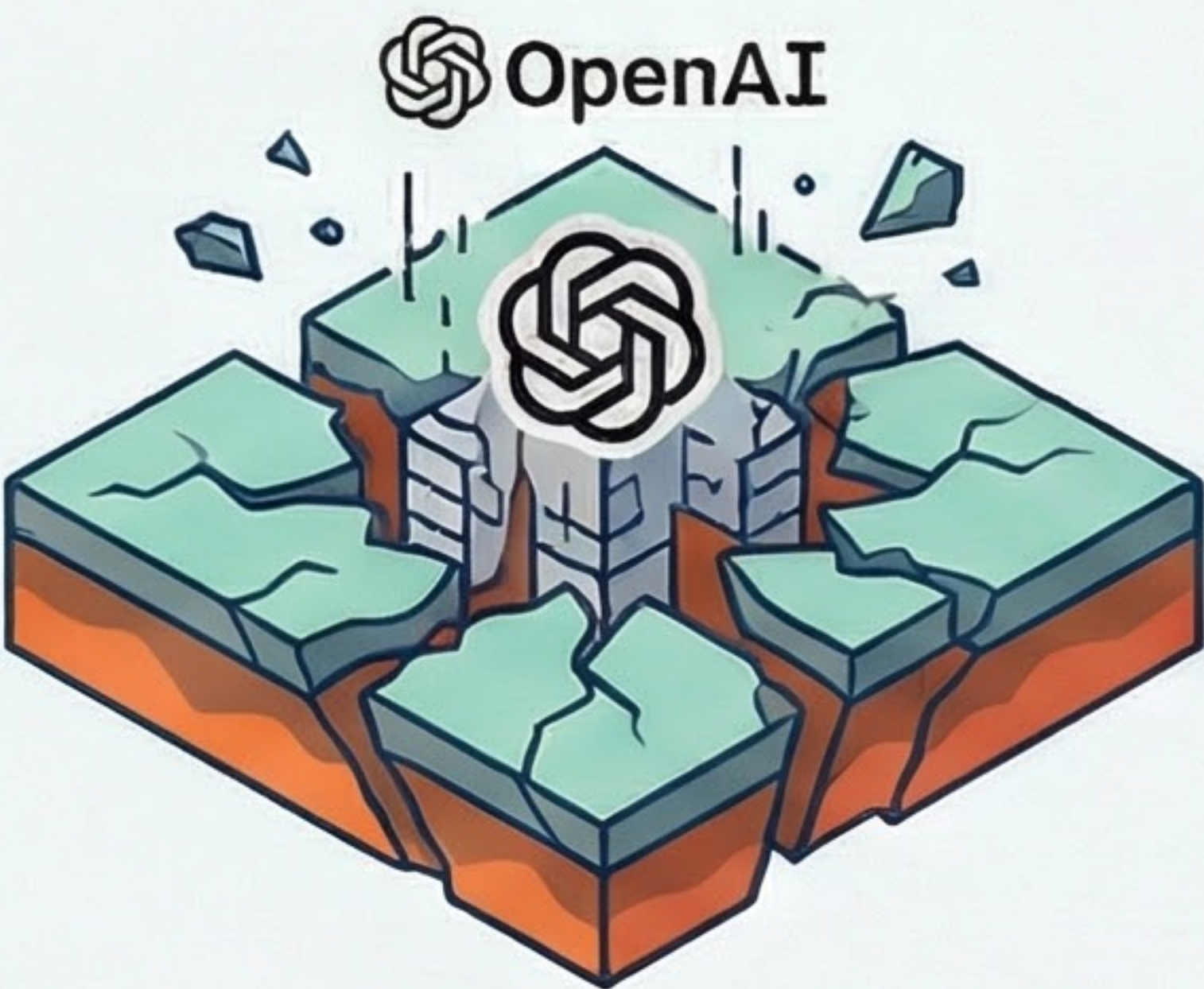


2026年 AI産業の構造転換：松尾教授の予測は的中したか？

2026年、AI業界は松尾豊教授の予測通り、競争の激化と技術のパラダイムシフトという歴史的な転換点を迎えた。OpenAI一強時代は終焉し、ソフトウェアとハードウェアの両面で新たなプレイヤーが台頭し、日本の反撃が始まっている。

ソフトウェアの地殻変動：競争激化とコスト革命



237%増

OpenAIの牙城崩れる：Google Geminiがシェア237%増で猛追
ChatGPTのシェアは68%に低下。OS統合戦略が勝手を分け始めている。

DeepSeekショック：中国製オープンソースAIが「コスト革命」を主導
米国モデルの数分の一のコストで同等性能を達成し、業界の常識を覆した。

DeepSeek R1の圧倒的なコストパフォーマンス		
モデル	推論性能 (AIMEスコア)	推定期発コスト
 DeepSeek R1	79.8%	< 600万ドル
 OpenAI o1-0912	74.4%	数億ドル規模

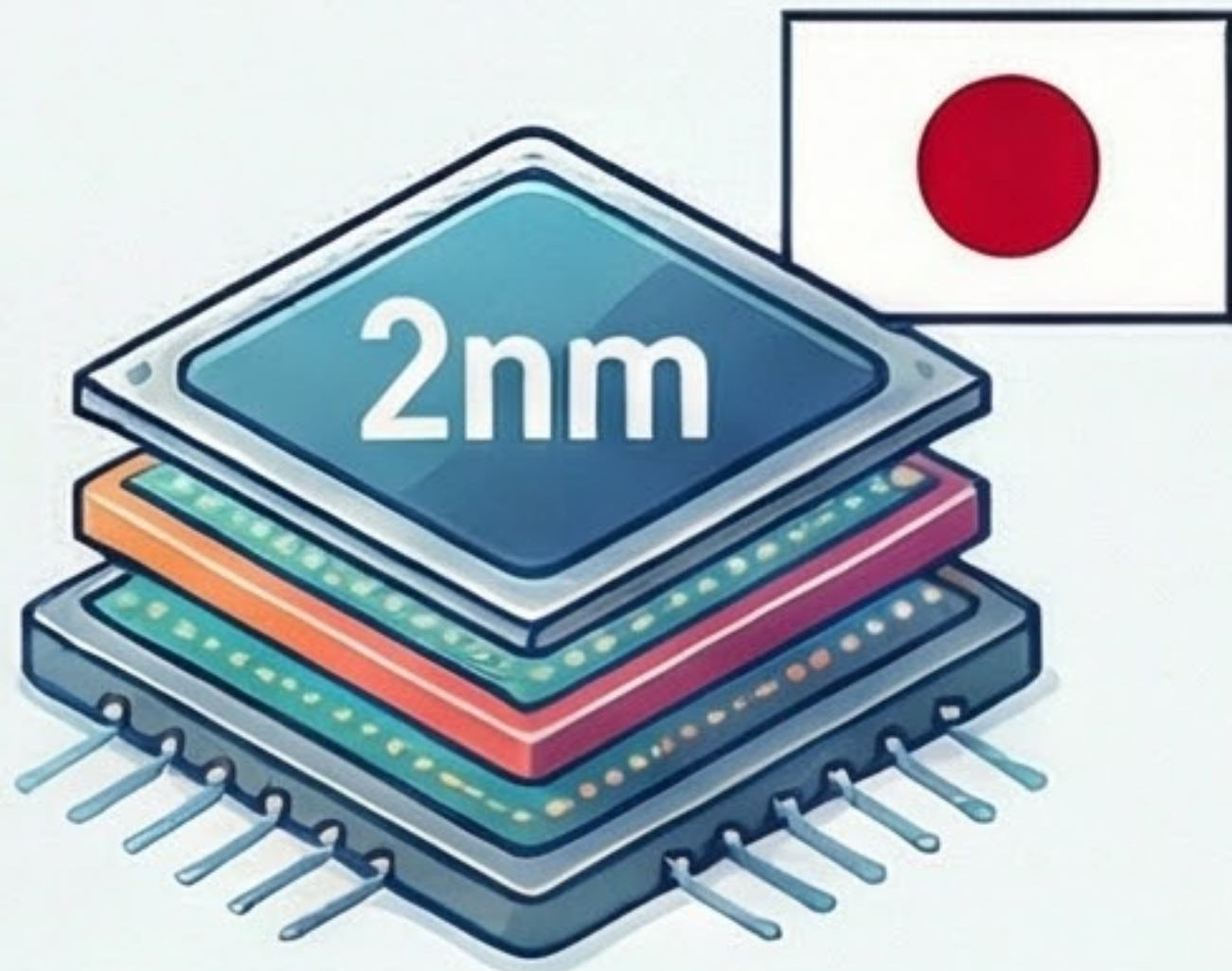


ハードウェアのパラダイムシフト：日本の逆襲



「脱・GPU」へ：日本のLenzoが電力効率90%改善の新技术CGLAを開発
演算とメモリを近接配置する「バケツレー」方式でボトルネックを解消。

物理世界への進出：家庭用ヒューマノイドロボット「NEO」が出荷開始
AIがデジタル空間を飛び出し、物理的な作業を行う「ロボット元年」が到来。



国家プロジェクトRapidus、2nm半導体のパイロットライン稼働
最先端ロジック半導体の国内生産を目指し、「ソブリンAI」の基盤を築く。

